

広島高速道路の大規模修繕計画等の検討状況について

1 要旨・目的

広島高速道路公社においては、将来にわたって安心安全で質の高い道路サービスを確実に提供するとともに、管理運営コストの最適化を図るため、広島高速道路の6割を構成する橋梁の大規模修繕や電気通信機械設備の計画的な更新について、学識経験者等の意見を伺いながら検討を進めており、その状況について報告する。

2 現状・背景

広島高速道路については、高速1号線の一部区間が供用後40年を経過し、法定点検において深刻な損傷が確認されるなど、橋梁の老朽化が進行している。他の供用区間についても、供用後それほど経過はしていないものの、凍結防止剤散布の影響が確認されるなど、今後、老朽化の進行が懸念される。

また、高速2号線、3号線一部区間の供用によるネットワーク化に伴い必要となった交通管制システムやETCシステムなどの大規模な電気通信機械設備が、設置から15年程度が経過し、今後、計画的な更新を行う必要がある。

3 概要

(1) 対象者

—

(2) 事業内容（実施内容）

ア 橋梁の大規模修繕計画

将来を見据えた長期的な健全性確保を目的に大規模修繕等の最適化に向けた技術的な検討を行うため、学識経験者で構成する技術検討委員会をこれまでに2回開催し、大規模修繕等の考え方や対策工法の選定などについて意見を聴取するなど、大規模修繕計画の策定に向けた検討を進めている。

イ 電気通信機械設備の更新計画

設備の重要度に応じて予防保全の考えを取り入れるとともに、各種設備の効率的な更新周期をとりまとめ、計画的な更新を実施するため、国が示す更新計画策定に関する指針及び手引きの考え方に基づき、ネクスコ西日本や他の高速道路公社から意見聴取するなど、電気通信機械設備に関する更新計画策定に向けた検討を進めている。

(3) スケジュール

年内の計画策定に向けて、検討を進める。

(4) 予算（単県）

—

(5) 今後の対応

安心安全で質の高い道路サービスの提供を行うとともに管理運営コストの最適化を図るため、年内の計画策定に向けて、引き続き、技術検討委員会を開催するなど学識経験者等の意見を踏まえながら検討を進める。